

ロシアによるウクライナ侵略の状況

(2022年11月30日時点)

▶ **ウクライナ軍が南部ヘルソン州のドニプロ川東岸及び東部ルハンスク州・ドネツク州の露軍への反撃を継続する一方、露軍はドネツク州における攻撃や各地の民生インフラに対する攻撃を継続している模様**

戦闘による人的被害・物的損耗の状況

ロシア軍: 死者5937人(ショイグ国防相発言9月21日)

: 死者約8万8380人、戦車喪失2911両、装甲車両5866両(「ウ」国防省11月29日)

: 死傷者7~8万人前後、装甲車両喪失3~4千両(米国防省8月8日)

「ウ」軍: 死者約9千人(「ウ」軍8月22日)

「ウ」市民: 死者6595人以上、負傷者1万189人以上(国連人権高等弁務官事務所11月21日)

「ウ」国防省情報総局は、露・ベラルーシ軍部隊が「ウ」北部に侵攻するかのような情報は、「ウ」国民の心理的動揺を企図したもので現実と合致していないと発表。このような情報の流布は情報作戦の一環とみられ、「ウ」軍部隊の一部を同国北部に割り、東部及び南部における反転攻勢の可能性を減じることが目的との見方を明らかにした(11月25日)

レズニコウ「ウ」国防相は、2月以降の露のミサイル・多連装ロケットによる攻撃が合計1万6千発以上に達し、その97%以上が住宅地等の非軍事目標を攻撃したものである旨発言(11月28日)

「ウ」軍参謀本部は、露軍がハルキウ州クピャンスク付近では占領地保持のため、ドネツク州リマンからドネツク南方の各地においては占領地拡大に向けた攻勢のため、砲撃を継続している旨指摘(11月29日)

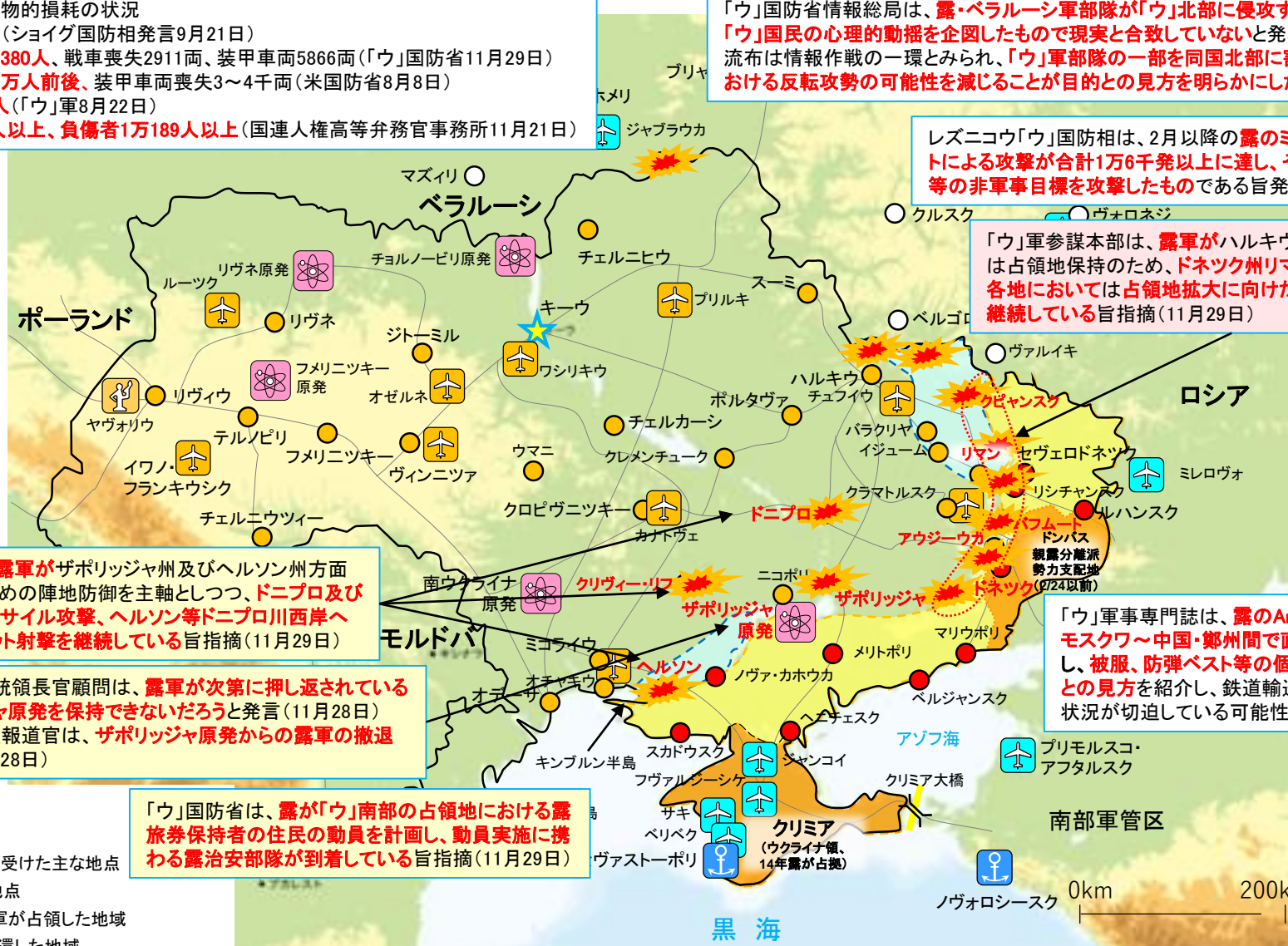
「ウ」軍参謀本部は、露軍がザポリヅジャ州及びヘルソン州方面では占領地保持のための陣地防御を主軸としつつ、ドニプロ及びクリヴィー・リフへのミサイル攻撃、ヘルソン等ドニプロ川西岸への砲撃・多連装ロケット射撃を継続している旨指摘(11月29日)

- ポドリャク「ウ」大統領長官顧問は、露軍が次第に押し返されているため、ザポリヅジャ原発を保持できないだろうと発言(11月28日)
- ペスコフ露大統領報道官は、ザポリヅジャ原発からの露軍の撤退計画を否定(11月28日)

「ウ」国防省は、露が「ウ」南部の占領地における露旅券保持者の住民の動員を計画し、動員実施に携わる露治安部隊が到着している旨指摘(11月29日)

「ウ」軍事専門誌は、露のAn-124大型輸送機が、モスクワ~中国・鄭州間で直近の1週間に9便飛行し、被服、防弾ベスト等の個人装備を輸送しているとの見方を紹介し、鉄道輸送を待てないほど露の状況が切迫している可能性を指摘(11月27日)

- 主要都市
- ✈️ 主要軍施設
- 💣 露軍による攻撃を受けた主な地点
- 露軍が占領した地点
- 👉 侵略開始後に露軍が占領した地域
- 👈 ウクライナ軍が奪還した地域



国土地理院標準地図を加工 資料源:ウクライナ政府機関ウェブサイト、ISW等